

一般社団法人となって

一般社団法人 日本トイレ協会 会長 高橋 志保彦



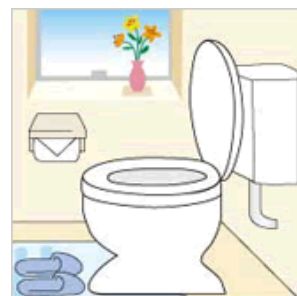
昨 2015 年の定時総会において会員総意のもとで、任意団体の日本トイレ協会が一般社団法人化を進めることが決議されました。以来会長、理事会、事務局が一体となって定款作成と組織編制を準備してきました。一般社団法人法や事例集を参照し検討してまいりました。司法書士に依頼する経費を節約し、事務局長自ら協会事務所が位置する文京区の公証人役場にも幾度となく通い、指導を受けながら進めました。

本年度の 5 月総会での承認をもって法務局に登録し、平成 28 年 6 月 9 日、一般社団法人日本トイレ協会となりました。

発足以来 30 年間、日本トイレ協会は地道な活動を続けてまいりました。トイレの大切さについて社会の人々の関心も深まり、マスメディアもこぞって取り上げるようになり、政府もその重要度を認識し、政策にまで反映させるようにもなりました。昨今災害時のトイレ問題も官民で真剣に検討されています。海外でも日本のトイレの先進性を、驚異と好意の目で見られるようになりました。私は会員の皆様のご尽力で、旧 3K（汚い、臭い、暗い）から新 3K（好感度、高機能、高質空間）になったと考えます。一般社団法人になり、ますます当協会の社会的認知度も上がり、責任も大きくなったと思います。

今後は一般社団法人法に基づいて会の運営をすることになります。これまでも公正で明朗な経理処理を行ってきましたが、これからは会計事務所にも業務の一部を依頼して誤りなき対応をしてまいります。

会員の皆様の一層のご理解とご協力、そして自由な研究や各種研究会での積極的活動を願い、当協会のますますの飛躍を成し遂げたいと思います。



2016年度通常総会報告

2016. 5. 21 於 (株)レンタルのニッケン会議室 (赤坂見附)

総会

- 1 日時 5月21日(土) 13:30~16:00
- 2 会場 (株)レンタルのニッケン BF大会議室
東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル
- 3 出席者 59名 委任 67名 計126名
会員総数 153名 126/153=82.3%
- 4 司会 浅井佐知子理事
- 5 議長 軍記伸一理事
- 6 議題



高橋志保彦会長 挨拶

- 第1号議案 2015年度経過報告 高橋会長他
第2号議案 2015年度収支報告 佐竹事務局長

以上満場一致で承認

- 第3号議案 一般社団法人定款案・内規について 高橋会長
修正提案 第8条 会員の資格喪失
第3項「本人が成年被後見人又は被保佐人となったとき」
削除

上記条文を第22条「役員の解任」第3項として追加する
提案事由～ 差別に通じるため

- 第8条第3項については提案通り削除
第22条第3項に追加については議長一任

総会終了後に事務局で公証人に相談

公証人の見解「一般社団法人法第65条に同条文が記載されているので
追加の必要なし」従って第22条には記載しないこととした。



司会 浅井佐知子理事

上記を踏まえて定款案を修正し、公証人認証を経て法務局登記へ登記することとした。時期 6月中旬
届出月日が一般社団法人として発足する時期となる。

- 第4号議案 2016年度活動予定 高橋会長他
第5号議案 2016年度予算案 佐竹事務局長

以上満場一致で承認

- 第6号議案 役員の構成案 高橋会長
一般社団法人役員 4名
高橋会長(代表理事) 山本副会長(理事) 鎌田副会長(理事) 飯嶋守
(監事)

その他運営委員

但し山戸里志理事の後任「山戸伸孝氏」

倉田丈司理事の後任「中森秀二氏」の補充を確認承認



会様風景

また新たに次の3名を理事（運営委員）として選任した。

新妻 普宣氏（法人A（株）総合サービス 代表取締役社長）

谷本 亘氏（法人A 日野興業（株） 営業企画部部長

村上八千世氏（個人会員 アクトウェア代表）

それぞれご挨拶され、総会議案については終了 軍記議長が解任挨拶された。



新理事 新妻普宣氏



新理事 谷本 亘氏



新理事 村上八千世氏

7 その他 司会 浅井佐知子理事

(1) 熊本震災現地救援報告

新妻理事 谷本理事 佐藤博会員（長崎国際大学准教授）が震災直後に現地に駆け付けられた生々しい状況報告と課題などの報告を受けた。

(2) 昨年総会以降入会された法人会員代表の挨拶を受けた。

1 無臭元工業（株） 岡元英祐氏 2 住友ベークライト工業（株） 森島務氏

3 中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋（株） 中村光伸氏

4 (有) ベスト青梅 太田剛彦氏 5 奥多摩町 原島滋隆氏

5 片倉工業（株） 武部立也氏

他に本日欠席の「中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸（株）」の紹介がなされた。

(3) 台湾衛浴文化協会理事長 游明国氏のご挨拶（高橋会長通訳）

本總會のために台湾から駆けつけて頂いた游理事長の挨拶を頂戴した。

次いで高橋会長から游理事長ならびに林台湾衛浴文化協会副理事長へ日本トイレ協会名誉会員の称号を贈呈した。また游理事長より日本トイレ協会副会長

山本耕平氏に台湾衛浴文化協会名誉会員の称号が授与された。

総会閉会挨拶 鎌田副会長より総会終了挨拶があった。



鎌田副会長 閉会挨拶



高橋会長より游明国理事長へ



游明国理事長より山本副会長へ

▼ 講演会（16：10～18：00）

司会 山本副会長

講師 新津 春子氏（日本空港テクノ(株)）

前半約40分はNHKドキュメンタリーに収録された新津氏の活動映像を放映した。

その後、坂本副会長のコーディネーターにより質問方式で新津氏の活動の原点や仕事に真摯に正面から向き合っている気持ちなどお聴きした。中国残留孤児の父上と中国の母上のもとに生を享け、云うに云われぬご苦労を重ねられ、自ら清掃を天職として肝に銘じ、日々の作業に心を込め、仕事自体を心から楽しんでいる生き方に、涙を流す会員の方もおられ感動的な内容のうちに終了した。



坂本副会長のコーディネーター



新津春子講師の表情



▼ 交流会（18：10～19：50）

参加者39名 司会 寅太郎理事により進められた。トイレ探検隊坂上隊長より熊本震災直後の状況などについてお話頂いた。

乾杯の音頭は松田芳夫理事がとられ、和気藹藹のうちに飲み放題の料理に舌鼓を打ち、参加者が次々とリレー一言挨拶をされた。

中締めは小林純子副会長で、例年通り全員が輪になって「アロハオエ」を合唱、大きな盛り上がるのうちに終了した。中締め終了後も立ち去り難く多くの会員は名残りを惜しんでいた。



小林副会長の中締め挨拶



アロハオエ 輪になって



交流会会場風景

**■自己紹介**

この度、日本トイレ協会の運営委員となりました日野興業株式会社 営業企画部 部長 谷本 亘です。現在 41 歳で業界に入って約 10 年と短いですが、弊社は仮設トイレの創業メーカーで入社以降、仮設トイレ一筋でやってきました。事業所所長を経て、3 年半前より本社にて営業企画、商品の開発、広報を担当し北海道から沖縄まで(時にはモンゴル)一年の内、半分以上は出張し仮設トイレに纏わる情報収集と仮設トイレの改善と普及に努めております。

■業界初！女性用仮設トイレ開発秘話？

約 2 年前に国土交通省と建設業界が一丸となって掲げた「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」に基づき、業界初となる女性専用仮設トイレ(後にフラワートイレと命名)の開発をスタートさせました。開発をスタートさせるにあたり、私の思いつきから現状の仮設トイレをピンクに色替えをCGで行ないプレゼンした結果、当初、社内では反対されましたが、ピンクのクラウンを引合いに出して、なんとか試作を作り「第一回トイレ産業展」に出展したところ大反響でその後、無事に商品化され今ではシリーズ化されるまで成長致しました。

■熊本地震にて学んだ事

熊本地震の経済産業省から依頼された支援物資としての仮設トイレの窓口を私が担当させて頂きました。会社としては東日本大震災で得た教訓と強い要望であった洋式の仮設トイレでの出荷という課題をクリアする事が出来ました。

また、内閣府や経済産業省はじめ社内、仕入先と多岐に渡り訓練の実施や打合せを繰り返していた結果、運搬や現地での組立等、大きな改善が出来たと思っております。しかしながら現地に何度か視察に行きましたが、まだまだ改善点や反省点は多くあり、いつどこで起きるかわからない大災害に備え、知識の向上と商品の改良、体制の強化を図りたいと考えております。

■これから仮設トイレが出来る事

今までは仮設トイレ=汚い・臭い・狭い・怖い・壊れているなど、悪の代名詞で新聞やテレビ等で取り上げられる事が多かったですが、これからは今、取り組んでおります女性用仮設トイレの普及活動や次世代仮設トイレの開発を通じて、建設現場、イベント、避難所とあらゆる現場で社会に貢献できる仮設トイレづくりと普及に向けて全力を尽くしていく所存です。



新運営委員の紹介 山戸 伸孝（株式会社アメ代表取締役社長）



この度、先代の後を継ぎ、日本トイレ協会に
頂く事になり株式会社アメニティの山戸伸孝
トイレ発展のお手伝いチャを頂き、本当にうれ
っております。

私の専門分野は「トイレメンテ専門職をも
ったトイレ診断士（厚生労働省認定社内検定機
適さ維持するためのサービスを提供していま
の分野の経験を活かしていきたく思います。

私が日本トイレ協会と出会ったのは当時私は大学で、敵西
岡秀雄日本トイレ協会会長と共にヨーロッパトイレ海外視察
きっかけです。

約20名の視察団でヨーロッパの各都市を回り、
しました。熱心な方が多く、視察先のトイレに着
構え、「これはスゴイ」とか、「これはもっとこ
ながら一緒にさせて頂いた事を覚えて言います。

多分当時ヨーロッパの方は、「なんだ。この日ト
本人たちは?!」と思ったと思いき世界に誇る今、本
レを体方違、まぎれもな皆様だっと思ひます

実に24年経過し、その皆様のお仲間に入れて頂ける事、大
当時よ、自分体形が大きくなりましたが、トイレ事情にも大きく貢
う全力で取り組んでま皆様ま
うかよろしくお願ひします。



※中段の写真

トイレでカメラを構える視察団
一番後ろで見ているのが私。

※下段の写真

クラインマッターホルンにて
視察団で写真撮影。の左から3





この度、トイレ協会の一般社団法人化と同時に、新運営委員を務めさせて頂く事となりました株式会社総合サービスの新妻普宣（にいづま ひろのぶ）です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

日本トイレ協会の皆様には、先代（新妻 金一）の時代から合せて、協会の歴史とほぼ同様の約31年間たいへんお世話になっております事、まずはこの場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

これまで協会内において、トイレシンポジウムの実行委員（松戸、鎌倉、横浜、渋谷、新宿）、経済産業省担当、協会の派遣講師（主に防災テーマにて合計4回）、メンテナンス研究会の幹事、派遣講師（主に防災テーマにて、共同講演含め合計6回）等を拝命頂き、たいへん良い経験をさせていただきました。

弊社の事業領域は、4分野（防災・医療介護・環境・公共商業施設）に関わる衛生設備・機器の製造・販売を主軸としておりますが、何れの事業においても社会の要望が増々高まっており、且つ、協会のシンポジウムや研究会等においても話題として取り上げられる事が多くなっております。弊社は、特に当4分野を中心に、協会へ少しでもお役に立てればと考えております。

中でも、「防災」に関する「災害用トイレ」については、本年4月も、熊本において大規模な地震が発生し、益々関心が高まっております。

今回の熊本地震では、発災時の熊本エリアにおける地震発生確率が「ほぼ0～6%」と非常に低く、現地自治体や市民等におけるトイレの事前対策が手薄となっていた事が考えられ、過去の地震時と同様に、「穴掘りトイレ」が必要となるなど、結果として「トイレ不足」が発生致しました。

協会メンバーや弊社においても、政府や民間企業等を通じて、現地に対して「災害用トイレ」等の支援を実施しておりますが、日常使い慣れない災害用トイレその物及び使用方法の周知不足等、過去の地震同様に、今回もトイレに関する課題が、我々にとっても多く残される事となりました。

また、政府では、今後30年以内に各種大規模地震（首都直下地震、南海トラフ地震）の発生確率が、約70%以上と高確率予想されております。トイレに関しては、それぞれ約3,150万回、約5,442万回の「トイレ不足」が想定されており、「災害用トイレの事前整備及び備蓄」が、喫緊の課題となっております。

現在、日本トイレ協会内の「トイレ文化研究会」及び「トイレシンポジウム（セッション）」においても、「災害用トイレ」がテーマ（予定）となっており、弊社としても参画・協力して参りたいと考えております。

今回、運営委員を拝命頂きました事を切欠として、今後特に、防災・医療介護・環境・公共商業施設に関わる事業や経済産業省の担当を中心に、微力ながら、日本トイレ協会並びにトイレ業界の発展に少しでもお役に立てるよう邁進して参りたいと存じますので、引き続きご指導ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い致します。

この度、日本トイレ協会の理事(現運営委員)を前任者の倉田より引継ぎました中森です。このような形で協会に関わらせていただくのは初めてになりますが、協会との関係は発足直後から、ほぼ30年になります。今回、自己紹介にあたって、これまでのトイレとの関わり、協会との関わりについて、改めて振り返ってみたいと思います。

■1979年(入社)－1985年頃 <トイレとの関わりの始まり>

トイレの世界に足を踏み入れることになったのは、旧伊奈製陶(現LIXIL)への入社に端を発します。その年の就職担当教授であった小原二郎先生の「ここに行ってみろ!」の一言が始まりと言っても過言ではありません。トイレ協会の運営委員である上野先生は、私の恩師の一人にあたります。入社はデザイン部門でしたが、4年目の春、「システムトイレの開発チームを立ち上げるから…」と異動を命じられました。これは当時計画中であった「有楽町マリオン」受注に向けて、設備・配管ユニットだけでなく、床・壁・天井を含めたトイレ一式を工場生産・現場組立で行うものです。当時、勤務地は本社のある常滑だったので、朝まで図面を描いては青焼きに焼いて、新幹線に飛び乗り東京まで…、という事を繰り返していたのを思い出します。

■1985－1990年頃 <トイレ協会との関わりの始まり>

1985年には伊奈製陶はINAXへと社名変更し、「トイレを第三の生活空間へ」という構想のもと、トイレに関連する様々な試みを行いました。それに伴い、商品企画・デザイン部門の一部を東京に移し、私もそれに深く関わることとなります。坂本副会長とは「XSITE」「松屋コンフォートステーション」等の関係でこの頃に初めてお会いして以来ということになります。一方、トイレ協会も85年に発足、シンポジウム以外にも「トイレトピアの会」が定期的に開催され、度々参加させていただき、山本副会長・浅井委員とはこの頃に初めてお会いしています。また、小林副会長のトイレ処女作「チャームステーション」では、メーカーとして衛生設備器具まわりの詳細設計のお手伝いをしており、その際に感じた壁掛け便器の使用面・施工面での弱点への気づきが、後の取付スタンドも含めた壁掛け便器リニューアルの企画開発に繋がっています。

■1990年－2000年頃 <メンテ研・ノーマ研を中心に協会活動>

この頃は、事業部門でトイレの企画を中心に携わっており、協会とは「メンテナンス研究会」「ノーマライゼーション研究会」の活動を通じて密接な関わりがあった時期です。メンテ研では「メンテナンスマニュアル」の作成に協力したり、ノーマ研では発足当初から世話人の一人として協力してきました。これら二つの研究会を通じて得られた知見と確信が、低リップタイプの壁掛け小便器や先に述べた壁掛け便器の企画・開発を進める原動力となっていたように思います。現在、これらの機器が当たり前のように設置されているのを見るたびに感慨深いものがあります。

■2000年－2010年頃 <工事会社への出向～再びINAXへ>

2000年になる少し前、一転、工事関係の子会社への異動を命じられ、それから6年程をリニューアル事業に取り組む事になりました。協会との関係は希薄な時期ではありましたが、何かと屁理屈を付けては研究会の活動に参加・協力させていただいたりしていました。後半には再び事業部門に戻りシステムトイレ関係や節水ESCO事業、無水小便器の普及推進に取り組むことになり、メンテ研の定例会にて、無水小便器に関して報告させていただいたりしています。

■2010年頃－現在 <渉外業務へ>

2011年には旧INAXからLIXILへと会社が統合され、それと前後して現在の渉外部門に異動。協会窓口部門でもあり、研究会関係はそのまま継続し、現在に至っています。



春の奥多摩湖

奥多摩町は、東京都のおよそ 10 分の 1 の面積に相当する 225.53 k m²の行政面積を有し、その 94% が山林で町全体が秩父多摩甲斐国立公園の中にあります。町の中心を西から東へと多摩川が流れ、東京都最高峰の雲取山(標高 2,017m)を頂点として、四方を山々に囲まれた緑豊かな水源の町です。また昭和 30 年に古里村、氷川町、小河内村の 1 町 2 村が合併し、雄大な自然を背景に「観光立町」を標榜しています。

古くから東京の奥座敷として、首都圏をはじめ多くの人々に親しまれてきました。町の観光が一躍有名になったのは、昭和 32 年の「小河内ダム (奥多摩湖)」の完成でした。昭和の時代、年間 200 万人と言われた観光客も週休 2 日の導入や祝日の増加、レジャーの多様化、高速道路等の交通網の整備により休日の過ごし方が大きく変化し、町の観光客も年々減少していました。しかし、近年では、中高年層及び山ガール等の登山ブーム、東京オリンピック・パラリンピックによる外国人観光客の日本ブーム、また、これまでに取り組んできた、観光公衆トイレなどのハード事業、観光客誘致のための観光 PR、特色のある観光パンフレット作成などのソフト事業の成果が徐々に現れ、観光客は増加に転じております。今後、さらに観光客の増加を図るため、観光公衆トイレの機能向上を目的に、「観光公衆トイレが日本一きれいな町」を目指すことを目標にしました。

これまでの奥多摩町の観光公衆トイレは、観光スポットにトイレを建設し、現在までに町内 40 か所に設置しています。また、清掃業務は、シルバー人材センターや奥多摩観光協会、自治会など、20 の団体や個人に委託し実施しています。その他、通常の清掃委託ではできない、特殊な薬品を用いた清掃や高所部の清掃を行う「特別清掃」を専門業者に委託し実施しておりますが、建物の老朽や清掃方法にバラつきがあり維持管理方法のあり方について見直しが必要となりました。

そのようなことから、老朽化したトイレの改修や維持管理を含めた整備方法について、平成 27 年度に「奥多摩町観光用公衆トイレ整備指針」(日本一きれいなトイレのまちをめざして)を策定しました。「観光公衆トイレが日本一きれいな町」と言われるように研究を重ね、設備機能の向上及び維持管理方法を確立し、多くの来遊者に気持ちよく使っていただけるトイレを実現し、観光客増加を図りたいと考えていますので、会員皆様のアドバイス及びご協力をいただけますようお願い申し上げます。(観光産業課 山宮淳也)



指針に基づき建替えた観光トイレ

日本トイレ協会に法人会員として入会いたしました
中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)です。

【会社概要】

当社は主に東海・北陸の8県にまたがり高速道路並びに高速道路施設の点検・保守及び関連業務を行っております。

社員の職種は土木・施設分野等多種多様であり、高速道路を利用されるお客様に安全・安心・快適を提供できるよう努力しております。

トイレに関しては、高速道路でトイレを利用される方々に、また日々清掃されている方々に、より良い施設を提供し利用して頂けるよう調査検討から点検・維持修繕まで、保全管理全般のトータルマネジメントを実施しています。

【トイレ関係の取り組み例】

高速道路の休憩施設であるSA・PAには必ずトイレが設置されており、多くのお客様にご利用を頂いております。最近では、お客様サービス向上の観点から、各SA・PAの改修が行われており、「公衆便所」⇒「明るく綺麗なトイレ」へと変化しております。

弊社の取り組みとして、お客様が安心して快適にご利用できる空間作りを目的とし、トイレ関連製品を各種開発し取り扱っています。

公共施設向けとして、連続使用時においても水温が下がらず、便座の破損・汚損時において部分交換が可能な、パブリック向け温水洗浄便座（写真-1）、環境負荷の軽減及び景観性向上、どんな人でも使いやすいをコンセプトにMDF（写真-2）を加工した衛生関連設備（手摺り・洗面ボール等）の開発・製品化を行い展開しています。また、オガクズを使用した水を使わない環境に優しい「バイオトイレ（写真-3）」の販売と、バイオトイレを車両に搭載した自走式の「バイオトイレカー」の製作を行い展開するとともに東日本大震災の災害支援として石巻市の避難所に派遣するなど災害支援活動も実施しています。（写真-4）



写真-1

パブリック向け温水洗浄便座



写真-2

MDF製品（手洗ボール、各種手摺）



写真-3

バイオトイレとは



写真-4

災害支援活動現地状況



今後、会員の皆様から色々な情報・ご意見を頂き、高速道路のトイレをより良くして行きたいと思っております。また、微力ながら日本トイレ協会様の力となれるよう努力して行きたいと思っておりますので今後とも宜しく御願い致します。（施設企画部 矢崎 賢一）

今年度から日本トイレ協会法人会員として入会させて頂きました片倉工業株式会社です。私どもは、昨年のトイレの日（11月10日）に合わせてオストメイト（人工肛門・人工膀胱造設者）の方用便座の販売を開始いたしました。初めての業界ですので諸先輩のご指導をよろしくお願いいたします。簡単にですが、当社と商品についてご紹介させていただきます。

1. 会社概要

会社名	片倉工業株式会社
所在地	〒104-8312 東京都中央区明石町6-4 ニチレイ明石町ビル
創業	1873年（明治6年）
資本金	18億1,729万5,000円
代表取締役社長	佐野 公哉
従業員	445名
主な事業内容	

- ・肌着の企画・製造・仕入・販売
- ・自動車部品、工業計器、各種バルブの開発・設計・製造販売
- ・ショッピングセンター、総合住宅展示場及び不動産賃貸事業
- ・交配用みつばちの製造・販売、国産はちみつの製造販売



2. 事業方針

「介護・福祉」、「環境関連」、「コミュニティサービス」「健康」の4分野において、グループの新たな柱となる事業を創造すべく取り組んでおります。「介護・福祉」関連の取り組みとして、140年以上にわたり培ってきた信頼のもと、既存事業における介護肌着や、デイサービス事業に続き、新商品として発売するものです。今後も「介護のカタクラ」として貢献していけるよう、商品ラインナップを拡充していきます。

3. 前広便座「いい安座（e-anza）」

前広便座「いい安座」は、日本で約20万人ともいわれるオストメイトの方々のご家庭でパウチから排泄処理がしやすい様考えられた便座です。この便座は、「広く開いた前部」と「幅広・奥行きのある座面」が特長で、座った状態でパウチ処理しやすい仕様となっており、オストメイトの方々には便利な設計となっています。



■いい安座

- ・温水洗浄暖房機能
- ・便座のみの交換、便器取替工事不要
- ・オストメイトの方とご家族が一緒にお使いいただけます
- ・採尿や自己導尿、介護の場面にもご利用いただけます（新規事業開発部ヘルスビジネス部 武部 立也）

今年度から法人会員として入会いたしました「中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸株式会社」です。どうぞよろしくお願い致します。せっかくの機会ですので当社の概要や業務内容等について紹介させていただきます。

1. 基本理念

中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸株式会社は、2007年11月1日にNEXCO中日本グループとして事業を開始しました。当社は、高速道路におけるメンテナンスの専門家集団として長年積み重ねてきた技術力、ノウハウを発揮して、北陸地域の大動脈である北陸自動車道、東海北陸自動車道及び舞鶴若狭自動車道を24時間・365日良好に維持管理し、お客さまの安全を何よりも優先し、安心・快適で信頼される高速道路空間を維持します。私たちは、NEXCO中日本グループの一員として、コーポレートステートメント「もっと安全に、もっとスムーズに」を念頭に、「より迅速でより確実な高速道路維持修繕」の実現に向けて、たゆまぬ挑戦を続けることで、社会に貢献する企業を目指します。

2. 主な業務内容

- ①高速道路の維持修繕業務
- ②各SA・PA施設の環境美化業務
- ③道路の維持管理に関する資機材の開発及び販売業務



災害時段差スロープ設置工法

「ジオスロープ工法」

3. 休憩施設トイレ清掃

休憩施設トイレ清掃を担当する当社として、利用するお客さまに「安心・快適」な環境を提供できるよう、基本となる「きれいな休憩施設・トイレ清掃」に向けて改善に取り組み、更には単なる清掃品質の向上だけでなく、「幸せ（感動）の提供」となるものを目指しております。今後も日本トイレ協会様や会員の皆様と情報交換をおこない、より良いトイレ空間を提供できるよう努めてまいりますので、よろしくお願い致します。

最後に当社の取組を一部紹介します。

①トイレの環境改善を目的とした専門家(株式会社アメリィ)によるトイレ診断・評価及び技術指導

②手作りの情報交換紙の発行「エリ子が歩くSA・PA」【写真-1】

・清掃スタッフそれぞれの悩みや課題の共有・解決、必要なスキル向上、連携強化等を目的とした、スタッフ相互、管理者との双方向の情報交換紙

③トイレ大好き女子&男子が行く！！

「あったかトイレ」に出会う自動車の旅 ～北陸エリア～【写真-2】

・企画をアントイレプランナー白倉正子様にお願ひし、当社管内のトイレをお客さまの立場で見て意見や感想を聞く事で、更なるトイレ全体の質の向上を目的として実施

④清掃スタッフ手作りのおもてなしグッズ【写真-3】

⑤エリア・レポート

当社が企画・立案。女性の視点で休憩施設全体を横断的に巡回し、グループ全体に報告・改善する取組



写真-1



写真-2



写真-3

(技術管理部

冨田 純)

1. 会社概要

平成28年6月より、日本トイレ協会様に入会させていただきました東リ株式会社と申します。当社は、1919年（大正8年）に東洋初のリノリューム製造会社として産声をあげ、塩ビ床材・カーペット・カーテン・壁装材へと事業領域を拡げてまいりました。住宅、オフィス、店舗、学校、病院など、さまざまなシーンを彩る製品やサービスのご提供を通じて、皆さまの住生活空間をより豊かに演出することが当社の使命であると考え、事業活動を推進しております。

2. 企業理念

東リグループは、創業以来、確かな品質の製品をご提供することに力を注ぎ、また、個性豊かで魅力ある製品の開発に情熱を傾けてまいりました。この「ものづくり」に対するこだわりが、建築・インテリア業界、並びにユーザーの皆さま方との信頼関係の礎となり、今日の東リグループが存在するものと考えております。



お客様との信頼関係の源となる製造現場

3. 主な業務内容

- ビニル床タイル、クッションフロア、ビニル床シート等、塩ビ製品の製造・販売
- カーペット・カーテン等繊維製品の製造・販売
- 壁装材の製造・販売
- 上記関連商品の製造・販売

4. 当社とトイレの関係

当社とトイレを結び付ける製品として、『クッションフロア』と『消臭NSトワレNW』の2つの商品を紹介させていただきます。

『クッションフロア』は、昭和47年に当社が他に先がけて、日本で初めて製造・販売を開始した商品で、現在でも住宅のトイレ等、水周り部位を中心に多くの物件に採用して頂いております。また、トイレ用床材である『消臭NSトワレNW』につきまし

ては、平成22年に『NSトワレ』として発売して以来、改良を重ねて、消臭機能と防汚機能を加えた現在の『消臭NSトワレNW』へと進化し、お陰さまで病院、学校、オフィスなど多くの市場で高い評価を受けています。我々は消臭NSトワレNWの開発、販売を通して、トイレ市場の多用性と奥深さに魅力を感じ、お客様に

もっと喜んでいただけるトイレ用商品を作りたいとの一心から日本トイレ協会様への入会を決意致しました。

今後はシンポジウムや研究会への参加や会員様との交流、情報交換を行うことで、トイレについての理解を深め、より良い製品の開発へと繋げ、

微力ながら日本のトイレ文化の向上に貢献できればと思っております。（商品企画部 小金丸昭洋）



オフィス、学校、商業施設、医療福祉施設などで大好評の『消臭NSトワレNW』



発売から40年以上のロングセラー商品『クッションフロア』

はじめまして。優成サービス株式会社です。今年度6月から個人会員から法人会員として入会させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

【会社概要】



平成3年6月12日に神奈川県海老名市に会社を設立いたしました。弊社は神奈川県公安委員会の警備業認可の他に神奈川県知事より建設業許可（土木工事、とび・土工工事、舗装工事業）の許可を得ております。

弊社は警備業、高所作業車、道路規制工事、建設業を複合して「ハイブリット警備」と称しております。

【福祉バイオトイレカーの特徴】

- 便器内におがくずを使用しているため、し尿処理は不要です。
- 全車両の屋根部分に太陽電池（ソーラーパネル）を搭載し、排泄物処理時のヒーターや排気ファン、室内の照明にも使用でき、環境にも配慮した設計です。
- 電動車いすでも利用できるよう300kg耐久性のあるリフトを使用し、車椅子ユーザーと介助者が同乗しても乗降が可能です。
- 冷暖房完備により、排泄に時間がかかる身体の不自由な方や介助者も快適にトイレが使用できます。
- 福祉バイオトイレカーの運転手が清掃員、管理者を兼務します。



これまで障がい者の屋外トイレの問題に真剣に向き合った移動できる車両は皆無であり、弊社の福祉バイオトイレカーは他にはないものです。都道府県の条例をクリアし公道を走行できる合法的な移動式トイレ車両です。

【身体の不自由な方のトイレ事情】

駅や商業施設などが隣接しない場所はバリアフリー新法適用外の場所でもあります。そのような場所で屋外イベントを開催の際、障がい者用トイレがない、もしくは不足している場所に、環境にやさしく利用者にやさしい機能を備えた福祉バイオトイレカーを設置し、身体の不自由な方・視覚障がいの方・オストメイトの方などが安心してトイレを利用し、屋外の活動に積極的に参加、外出の機会を増やすことにより、より豊かにより潤いのある生活を営める環境を築くことができるようなトイレでありたいと考えます。

『人が多く集まる時には、普段は利用の少ない多目的トイレも大混雑』してしまい、車いすユーザーや介助の必要な方々のトイレ事情（排泄に10分～20分時間を要す）を知らない健常者から非難を浴びるという事態も発生しており、特に女性の車いすユーザーの多くは外出を躊躇っているのが現状です。

【機動性に富むトイレ】



2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。このような規模の大きなイベントの際には、たくさんの人々が集結する為、その分トイレも必要となります。既存のトイレでは足りない時や仮設トイレが設置できない場所、人々の動線に合わせて移動ができ、任意の場所へ設置できるこのバイオトイレカーの必要性は増すと思われます。オリンピックへ向けバイオトイレカーの台数を増やしたとしても、その後の活用方法として、例えば47都道府県それぞれに所有

していただき、災害時や花火大会、スポーツ大会等の屋外イベント時に活用することにより、障がい者や高齢者がトイレの心配なく参加でき、健常者と共存する社会を構築することができます。

これからも身体の不自由な方へのトイレ支援活動に邁進していきますのでご教授の程よろしくお願いいたします。（代表取締役社長 八木正志）

今年の春にアフリカのガーナ共和国に行ってきました。アフリカ大陸に行くのは初めてだったので、どんな世界が待ち受けているのか全く想像が付きませんでした。特に個人的にアフリカのトイレ事情に関しては、「トイレ自体存在しない」「街のあちこちに排泄物がごった返している」「水が流れない」などといったテレビやネット上での真偽が定かではない知識しかありませんでした。そこで、アフリカに行く前に私は心の準備も兼ねて、「①水洗トイレがない」「②外でトイレをする」といった日本とガーナでのトイレの違いがあるだろうという予想をしました。

実際にガーナに着くと、本当にたくさんの違いに驚かされました。3週間ほどガーナに滞在したのですが、結論から言うと「想像ほどではないが、根本的に人々の意識が違う」というのが私の率直な感想でした。

具体的には、「①小便は外でする人が多い（特に男性）」「②公衆トイレは大便専用」といった日本ではあまり見かけない点が印象的でした。また「トイレ自体存在しない」というイメージを持っていたので、正直水洗トイレの普及率には驚かされました。特に首都のアクラのレストラン、会社や病院や大学などでは、ほぼ100%水洗トイレが設置されており、もちろん日本の水洗トイレに比べると、トイレトペーパーは流せなく、全体的に多少汚いという印象はぬぐえませんでした。水はちゃんと流れ、トイレとしての機能は十分に果たしていました。水洗トイレも整備され、アフリカのトイレ事情がネットやテレビで騒がれるほど悲惨な物ではない様子を目にして私はほっとしました。しかし安心したのも束の間、すぐにガーナのトイレの現実を目の当たりにしたのです。



あれは1週間ほどガーナに滞在し、排泄物が街中に溢れているというのは嘘だったのかと思いだめた頃でした。アクラの海に行った際に、異様な光景が目に入ってきました。35度を超える炎天下にも関わらず、海で泳いでいる人はゼロ。不思議に思い、海を注意深く観察してみると、海が黒く濁っている事に気づいたのです。「なるほど、海の水が汚いから泳がないのか」と予想すると、現地の人達に「海に浮いている黒い物が見えるか？」と言われ、再び海を見ると愕然としました。海岸から30メートルくらいまでの海一帯に黒いビニール袋が漂っていたのです。しかもその内の半分ほどは袋が破れていて、ヘドロのような物が漂っていたのです。

妙な寒気がしました。すると、現地の人達が「あれは排泄物（大便）だよ」と教えてくれました。彼らによると、アクラではレストランや会社などの比較的富裕的な地域では水洗トイレが普及していますが、やはり貧困層の間では水洗トイレは全く普及していないそうです。しかしアクラには富裕層だけでなく貧困層も多く住み、彼らは家にトイレがない事が多いため、大便を黒いビニール袋などに入れて海に投げ捨てているようです。小便は道端や建物の壁などでしているようです。

つまり、家にトイレがない人達が排泄物を海に投げ捨てるため、アクラの海は汚れ、また海に入ると病気になる可能性が高いので、泳ぐ人も漁をする人もいないのです。

トイレ環境を改善しようと政府も力を入れていて、その成果もあり水洗トイレが増えている事は素晴らしい事です。しかし残念ながら、レストランや公共施設で水洗トイレの数を増やしても、結局は各家庭のトイレ

レが増える事には繋がらないので依然として不衛生な環境が大きく改善されるとは思えません。全家庭が適切なトイレを持たずには、本当の意味でトイレ環境は改善されません。

ガーナが抱えるトイレの問題を根本的に解決するには、国民全員が排泄物をきちんと処理するトイレを持つ事が必須です。そのためにもまずは排泄物を適切に処理する事で病気が減るという事を国民に教育していく事が第一歩であると思います。街中で小便禁止の看板が溢れている、海に排泄物を投げ捨てるという行為がありふれているのも、人々の問題意識が低い事が根本的な原因だと考えます。大学や会社などで会った全ての人々は、トイレの問題やマナーなどを徹底的に教わってきたので、昔は街中で立ち小便をした事もあったが、問題を知った今では立ち小便も排泄物を海に捨てた事もないと言っていました。効果的に伝えれば、必ず彼らの意識は変わると思います。現に彼らが変わってきたのです。

食中毒や下痢などの病気を減らすために、街中で小便をしない、排泄物を海に投げ捨てないという行為を全国民で徹底していく事で、彼らの意識が変わるのではないかと感じました。

トイレを使えない人だけではなく、使わない人の意識を教育という形で変えていく事がトイレ先進国の我々に出来る貢献の第一歩だと思っています。

また来年にガーナに行くので、その時に色んな施設でトイレ問題の提起を行います。



首都アクラの街中にある注意書き

「小便をするな！この馬鹿者」

地元の人達の話をおくと
立ち小便をする人が後を絶たないようです。



同様に小便禁止の注意書き

「ここで立ち小便禁止 罰金50セディ（通貨）」

大型ショッピングモールの駐車場。
モール内に水洗トイレが多数完備されているにも拘らず
に立ち小便をする人が絶たないようです。



国道沿いのガソリンスタンドの男子トイレ。

床の排水溝のような部分めがけて小便をします。

入口にドアも壁もありませんでした。



国道沿いのガソリンスタンドの女子トイレ。
一応トタン板はついていますが、ドアもなく外から丸見えでした。但しドアがない代わりに、目隠し用の壁がありました。

また便器自体に穴が空いており、理由は不明ですが周りには石が置かれておりました。



ある会社のトイレ。

余計のものは一切なく、清掃が行き届いている印象の水洗トイレです。

但し、トイレットペーパーは流さずに隣の赤い箱に捨てる必要があります。



ある大学のトイレ。

日本にあるトイレとあまり遜色はありませんが、水が勢いよく流れすぎて便器から水が撥ねることもありました。



トイレットペーパーを捨てるゴミ箱。

新聞紙をトイレットペーパーとして使用しています。
(ベレクソ村の公衆トイレ)



公衆トイレの外観。

トイレが8個くらい横一線に並んでいます。

ドアの前に壁があり、目隠しの役割を果たしています。
(ベレクソ村)



女子トイレの様子。

穴が2つありますが、小便と大便を分けているのかは不明です。

おそらく大便専用とのことでした。
(ベレクソ村の公衆トイレ)



公衆トイレのドア。

釘を鍵として使用しています。

但し、殆どの釘が緩すぎたりして、しっかりと締まらずに鍵として機能していませんでした。

(ベレクソ村)



大便専用のトイレ。

地元の人によると、穴が2つあるのは綺麗な方の穴を選ぶたるとのことですが、詳しい理由は不明。

1日に1度掃除をするそうなので、穴の周り是比较的綺麗でした。

(ベレクソ村の公衆トイレ)

無意識の差別を問う

川内 美彦

＜東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 教授 協会運営委員＞

1：はじめに

2006年、国連で障害者権利条約が採択され、わが国は2014年1月にこれを批准した。そしてこの条約を実行するための国内法の一環として、障害者差別解消法が2016年4月から施行された。障害のある人の社会参加が阻害されている問題について、世界的には「心」「やさしさ」「思いやり」ではなく、平等な社会参加は人としての権利であり、それが阻害される状況は差別であるという視点で取り組んできており、それがやっと日本にも波及してきたと言えるであろう。

現在では、障害があるからという理由であからさまに行われる差別については人々の意識も高まってきているが、間接的に行われる差別は未だに人々の認識の外にあるものが多い。たとえば求人において「自力通勤ができる者」という条件をつけることは、本人のその職場における職務遂行能力とは関係ないものであり、間接的な差別であるといえる。

このように、当人たちにはその意識がなくても、結果として差別、あるいは差別的な扱いをしていることはしばしばあることである。これをなくすには人々の意識を啓発していく必要があり、無意識に行われている差別的な言動を指摘して、意識の表面に出す作業が必要である。従ってその作業の目的はそういう言動を行った人への非難ではなく、その言動のどこがどう問題なのかを明らかにし、意識を喚起するところにある。

先般配送された協会ニュース No. 15-4 に掲載されたコマニー株式会社高橋未樹子氏による「2020年のトイレを考える」という記事（以下、高橋論文）について、いささか気になる部分がある。ここではそれを指摘して、何がどう差別的なのかを明らかにしたい。

2：高橋論文について

高橋論文はトイレブースを設計しているという職務上の立場から、「障害者に対する”個”への対応」「外国人に対する”個”への対応」について述べているが、限られたトイレスペースでこれらの個別ニーズにどう対応するかについての記述が主である。

「障害者に対する”個”への対応」においては、オリンピック、パラリンピックで障害のある人が集団で訪れる場合の対応をどうするかについて、「多機能トイレみたいに大きなトイレをたくさん作ることもできない」として、いかに狭いスペースでニーズをこなすかについて言及している。解決策を考える方向性として、「車椅子の人みんなが（中略）広いスペースを必要とするわけではない」と述べ、「1400mm×1600mm程度のスペースで十分な人もいれば、中には通常サイズのブースであっても扉の開口さえ650mm以上あれば、扉は閉められないけれども自己導尿できるという人もいる」として、狭いスペースで何とかするという解決策を強く示唆している。

「外国人に対する”個”への対応」においては、荷物を持った外国人が利用することを想定し「荷物を持っていないとき、リュックサックを背負っているとき、スーツケースを持っているとき、それぞれのトイレブースに入るとき扉の開閉に要するスペース」についての図が添付されている。そして「トイレを使う人の体格はもちろん、手荷物などの状態によって（中略）“個別”の最適なスペースを検討しなければいけない」と結んでいる。

この二つの文は、共にスペースについてであるが、その立場は大きく異なっている。障害のある人に対しては「扉は閉められないけれども」使えるという人の声を紹介し、当事者がそう言っているのだから扉が閉められないのもやむなし、という空気を醸しているのに比べ、外国人については扉を開けて使ってもらおうという選択肢は最初から考慮していない。

海外に行けば安全面での問題や破壊行為によって扉のないトイレブースは珍しいことではない。中国では俗称ニーハオトイレといった例もある。扉が空いていても使えるよ、という外国人もいそうなものだが、高橋論文にはそのことは触れられていない。そう考えると、高橋論文では、障害のある人と外国人では発想のスタートから異なる立場を取っているようである。障害のある人は扉が閉められないトイレでも場合によっては容認できるという立場であり、外国人についてはそれは論外という立場である。

公共のトイレで扉が開いたままでも構わないと考えることは、日本の常識として認められるべきものだろうか。高橋論文ではそういう人もいと書いてあるから、インタビューでそう答えた人がいるのだろう。ではその人は扉が開いたままと閉じられるトイレでは、どちらを選ぶのだろうか。普通、日本の公共トイレで扉を開いて用をたしていれば、かなり奇異な状態ではないだろうか。それを障害のある人には容認できると強く示唆するというのは、障害のある人には他の人よりも一段低い扱いで我慢してもらおうという意識が底にあるように思える。

3：まとめ

冒頭に紹介した国連の障害者権利条約では「他の者との平等」が重要な考え方として通底している。トイレがただ使えればいいのではなく、そのトイレ環境は「平等」でなければならないのである。「平等」とは決して同じ設備を使えということではなく、行為の目的を達成するのに他の者と同じレベルの自由度や選択肢を得られたり、満足度を得られたりすることであり、それはたぶん、一方だけがドアを開けて用をたすことをやむなしと考える発想ではないと、私は考えている。

高橋論文に悪意があるとは思わない。しかし、差別というものは悪意がなくても生まれるものだということとは理解しておく必要があるだろう。

一般社団法人 日本トイレ協会 理事・運営委員等 氏名一覧 28.7現在

役職	種別	氏名	役職	種別	氏名
会長	代表理事	高橋志保彦		運営委員	軍記 伸一
副会長	理事	山本 耕平		運営委員	白倉 正子
副会長	理事	鎌田 元康		運営委員	谷本 亘
	監事	飯嶋 守		運営委員	寅 太郎
副会長	運営委員	坂本 菜子		運営委員	中野 洋一
副会長	運営委員	小林 純子		運営委員	中森 秀二
	運営委員	赤堀 時夫		運営委員	新妻 普宣
	運営委員	浅井佐知子		運営委員	松田 芳夫
	運営委員	天池 洋一		運営委員	村上八千世
	運営委員	上野 義雪		運営委員	森田 英樹
	運営委員	金子 健二		運営委員	山戸 伸孝
	運営委員	川内 美彦	事務局長		佐竹 明雄
	運営委員	木内 雄二	名誉会長		平田 純一

寺院における災害用トイレの講演 報告

～ 災害時 寺院はトイレの駆け込み寺となっていた ～

新妻 普宣（㈱総合サービス 代表取締役社長 協会運営委員）

4月16日、発生確率が「ほぼ0～6%」とされていた熊本において、大規模な地震が発生いたしました。これまでも、政府では、今後30年間に大規模地震（首都直下地震・南海トラフ地震）が約70%の確率で発生すると想定され、災害用トイレについても、水や食料と同様、いやそれ以上に備えようという気運が高まっていた最中に、また大規模な地震が発生してしまいました。

そのような背景の中、寺院の団体より協会事務局へ、災害用トイレの講演依頼が継続的にあり、この度、協会の派遣講師として、講演を実施（合計3回）致しましたのでここに報告させていただきます。

これまで、災害用トイレの対策では、自治体や企業等の対策活動が主体となるケースが多かったのですが、寺院の団体においても、災害用トイレの対策が進行しております。

今回の講演を通じて、寺院の団体が、ご住職、檀信徒[※]等に対して、トイレに特化して研修会を開催し、対策を検討するという熱心さに感銘を受けました。その熱心さの理由の一つに、東日本大震災において、寺院が「緊急トイレのかけこみ寺」となった事もありました。

当研修会を企画されたご住職のお考えでは、「食料の確保と同等ないしそれ以上に、災害用トイレの備蓄など衛生面に対する知識と対策を啓蒙していきたい。」と、今後について述べられ、同団体の東京全エリアにて、災害用トイレの認識と整備が益々拡大する事となりそうです。

※ 檀信徒：檀家（檀徒）と信徒をまとめた言い方。

《開催履歴（合計3回）》

研修名：（何れも）「都市部災害時におけるトイレ問題と対策」

～ 大規模災害時における都市部寺院のトイレ対策を考える。～

第1回目 日時：2014年6月8日（日）15：30～17：00

主催：浄土宗 東京教区 豊島組 参加者：住職、檀信徒等 約50名 場所：定泉寺（文京区）

第2回目 日時：2016年3月7日（月）18：00～19：30

主催：浄土宗 東京教区 城西組 参加者：住職 約30名 場所：増上寺（港区）

第3回目 日時：2016年6月8日（水）14：00～16：00

主催：浄土宗 東京教区 浅草組 参加者：住職 約30名 場所：西光院（台東区）

《講演内容》

- (1)日本トイレ協会とは？
- (2)過去に発生した震災時におけるトイレ事情
- (3)災害対策トイレの現状
- (4)災害対策トイレの今後（対策）
- (5)最後に（まとめ）



会場となった 浄土宗 大本山 増上寺



当日の講演の様子（浄土宗HPより）



浄土宗ニュースにも掲載されました。（浄土宗HPより）

① 東日本大震災のトイレ事情



避難所の仮設トイレ 衛生環境は劣悪状態(宮城県仙台市) 25

講演内容の一コマ その1

③ 阪神・淡路大震災のトイレ事情



仮設トイレは、汚物でいっぱい・・・

講演内容の一コマ その2

④ 災害時にトイレが使用不全となる理由
④-2 上水道の被害想定

上水道 トイレを流す水が不足します。

想定地震	上水道 断水
南海トラフ巨大地震	3,440万人 復旧 約60日
首都直下地震	1,440万人 約30% 復旧 約30日 (90%解消)

東日本大震災では、
全国 約230万戸 断水発生(発災直後)

講演内容の一コマ その3

⑥ 災害対策用トイレの備蓄率(東京都の例)

A		B	
2011年3月 調査		2014年 調査	
東日本大震災発災時		東京都における 備蓄用差のあった物	
トイレ	6.3%	トイレ	17.6%
食料	55.9%	食料	49.5%

講演内容の一コマ その4

以上



平成28年4月14日以降、熊本県を中心に発生した地震の被害により
 お亡くなりになられた方に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、
 被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

特集 熊本地震 ~被災地トイレの現状



今回の熊本地震において、政府の要請で携帯トイレの支援も行っている株式会社総合サービスの新妻普宣社長から、避難所のトイレの様子についてレポートが届きました。かわや版編集室では、災害時のトイレの状況を知る大変貴重な資料と捉え、被災地の支援復興と今後の防災対策の一助になることを願い、このレポートをお伝えしていこうと思います。



Profile
 にいつま ひろのぶ
新妻 普宣
 災害時や介護などに使用する携帯トイレ・簡易トイレを手がける株式会社総合サービスの代表取締役社長。阪神淡路大震災から現在に至るまで被災地の現場で蓄積された知識やノウハウを生かし、各地で防災対策についての講演活動なども積極的に行っている。

熊本地震 現地視察報告

平成28年5月7日(土)、今回の熊本地震で被害の大きかった熊本市や益城町など、視察した当時断水になっていたエリアを中心に8箇所の避難所を視察しました。視察では、発災から現在にいたるまでの避難所の衛生環境、トイレで困っていることの聞き取り、携帯トイレの配布状況、マンホールトイレの設置状況などを調査しました。熊本市内のホテルは避難者の「みなし避難所」となっていることが多いと聞いていたため、当日は約100km離れた佐賀市を拠点として現地入りしました。

まずは熊本県庁へご挨拶。現在でも県庁職員は休日返上で対応。県庁のロビーには毛布と支援物資の山が並ぶ。



熊本城の城壁も崩壊。



中面に続く ➡

1 熊本市 西原中学校

熊本市内のマンホールトイレ(マンホールから下水道に直結できる災害用のトイレ)の設置場所が、8カ所あるとの情報から訪問。



▲体育館裏に設置されたマンホールトイレ。中は洋式。5基中1基は車椅子対応型。排泄後の流下用と思われる用水もバケツに用意されている。



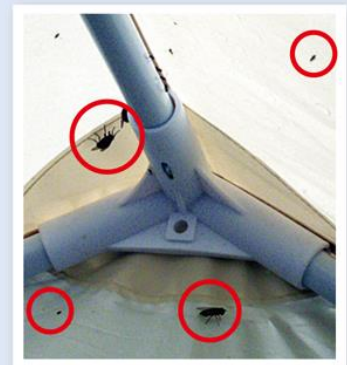
▲「マンホールトイレ」用の親子蓋



▲トイレットペーパー/シート型のトイレクリーナー/消臭スプレー



▲トイレ後の手指消毒用のアルコールスプレーとペーパータオル



▲当時の気温は26℃程度。トイレ内にはすでにハエや蜂などの害虫が発生。これからさらに気温が上昇し、「害虫対策」は今後の課題と思われる。

2 熊本市 白川中学校

訪問時、熊本市内は既にライフラインが復旧していた為か、設置されていたマンホールトイレはすでに撤去されていた。当日は学校再開に向けて被災した下水道を工事していた。



《視察した避難所と4月16日1時25分発生地震の各地の震度》



3 益城町 グランメッセ熊本



▲避難所本部



▲駐車場には車避難者やテントが多数。



▲紙おむつはサイズ・機能別に区別されていた。



▲仮設トイレ15基は男性用、女性用、共用と分けられていた。



◀当初は和式型が多数だったが、被災者から洋式希望の声が多く、訪問時は洋式型が多数設置されていた。

▶トイレ使用のマナー啓発ポスターがトイレ内に掲示されている。トイレ環境の衛生管理には、非常に気を使っていた。



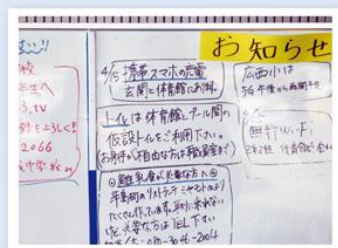
◀グランメッセ熊本の清掃メンテナンスをされている会社が、継続して仮設トイレのメンテナンスを行っているとのこと。



▲手洗い用の給水タンクと投光機。手洗い石鹸と消毒スプレーも用意。

4 益城町 広安西小学校

200人で5基の仮設トイレを使用。朝は30人くらい並ぶ状況。発災直後3日間くらいは和式型のトイレしかなく、特に高齢者は苦勞されたとのこと。

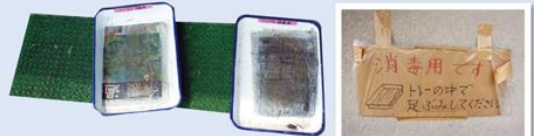


▲当避難所も下水道不全。全員が仮設トイレを使用。

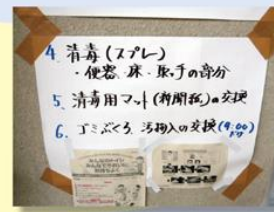
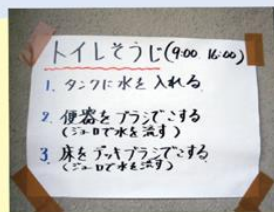
▶トイレで紙が詰まった時の「ポットンぼう」(ぼうきの先を切断して作った現場のアイデア用品)。各トイレブースに常備。



▲男女共用の仮設トイレの隣には、「女性専用エリア」も設置。



▲新聞紙に消毒液を浸した「消毒用トレー」。トイレ使用後に靴の裏を消毒する。



▲手作りのトイレ清掃マニュアル。こちらトイレの衛生管理には非常に気を使われている。

5 西原村 西原中学校

発災当初は下水道が使用でき、プールの水があったため既設のトイレに手動で水を流して使用。仮設トイレは3~4日後に8基設置、上水道は5日後くらいから復旧した。高齢者、要介護者用には**介護用ポータブルトイレに携帯トイレ(便袋)をセット**して使用されていた。発災時には**トイレ用の清掃道具が不足**していたとの事。視察時はライフラインが復旧して既設トイレは使用可能となっていたが、車避難者のために仮設トイレも併用。



▲和式型の仮設トイレ



▲手洗い用水と消毒用アルコール



▲1,173戸の断水が続く西原村の避難所では自衛隊による給水支援と「お風呂」支援が行われていた。



6 西原村 山西小学校

発災時は断水したが、貯水槽の水があったため既設のトイレを手動で使用。仮設トイレも早い段階(2日後ほど)で設置された。ライフラインはほぼ復旧しているが車避難者の為に仮設トイレも併用。



▲和式型の仮設トイレをアタッチメントで洋式化
高齢者を始めとして洋式の要望は多く、既存の和式型仮設トイレを洋式化するアタッチメント用品が活躍している。洋式化後のトイレトペーパーの位置に工夫を期待。

まとめ

今回の熊本地震を東日本大震災と比較すると、被災地域が狭く、集中的に対応できたため、被災後2~3日と早い段階で仮設のトイレが設置され、衛生的に保持されたものと思われま。そこには東日本

大震災後に制度化された**政府のプッシュ型支援**(※)が大きな役割を果たしました。必要な物資が比較的早い段階で被災地に到着していたことは、これまでの震災からの教訓が生かされたと言えるでしょう。ただし、初めての運用とあってか、物流拠点から避難所への

物資の配布については混乱が見られ、近くに物資が来ているのに避難者の手元に届かないという問題も起こりました。その点は今後の制度の改善が望めます。

今後は、国の支援が到着するまでの間、家庭や企業、自治体などでトイレを確保することが求められます。首都直下型地震を想定して、他県に比

べ防災意識の高い東京都さえ、現在、災害用トイレの備蓄率は17.6%に留まっています。南海トラフ地震、首都直下型地震の想定域のみならず、「**どの地域でも大地震は起こる**」ということを念頭に置き、自治体、企業から家庭に至るまで、全国的に災害用トイレの備蓄等の対策を早急に推進することが重要だと思われま。

※発災当初は被災自治体が正確な情報把握に時間を要する等、必要な物資量を迅速に調達することは困難と予想されるため、国が被災自治体からの具体的な要請を待たないで、避難所・避難者にとって必要不可欠と思われる物資を調達し、被災地に緊急輸送すること。

編集 後記

益城町にあるアメニティのFC加盟店も建物が半壊する大きな被害を受けました。アメニティネットワークでも、震災翌日から福岡の加盟店が応援にかけつけ、5月11日には当社社長や、神戸・福島で被災した有志が中心となって現地を訪問しました。自宅が被災し、避難所やビニールハウスでの生活をしながら復興に向けて仕事を再開している社員もおります。かわや版でも、被災地熊本への復興を応援していきたいと思ひます。がんばろう熊本!



理事会経過（2016年4月～7月）

■ 第1回理事会

日時 4月4日（月） 17時30分～20時05分

場所 ㈱レンタルのニッケン BF会議室

- 議題
- (1) 2015年度収支報告及び2016年度予算について
 - (2) 2016年度総会について
 - (3) 第32回全国トイレシンポジウムについて
 - (4) グッドトイレ推進運動について
 - (5) 一般社団法人化進捗状況について
 - (6) 役員構成について
 - (7) 事務局連絡

■ 第2回理事会

日時 5月9日（月） 17時33分～20時10分

場所 ㈱レンタルのニッケン 6F会議室

- 議題
- (1) 総会について
 - (2) 第32回全国トイレシンポジウムについて
 - (3) プレ便大会について
 - (4) 各部会 研究会 委員会の動き
 - (5) 事務局連絡

■ 第3回理事会

日時 6月6日（月） 17時35分～20時05分

場所 ㈱レンタルのニッケン 6F会議室

- 議題
- (1) 総会報告について
 - (2) 各委員会、部会、プロジェクトへの取組みについて
 - (3) グッドトイレ推進運動進捗状況について
 - (4) 第32回全国トイレシンポジウム準備について
 - (5) 事務局連絡

■ 第1回運営委員会（一般社団法人移行のため従来の理事会を運営委員会に改称）

日時 7月4日（月） 17時30分～19時40分

場所 ㈱レンタルのニッケン 6F会議室

- 議題
- (1) 一般社団法人への移行について
 - (2) 第32回全国トイレシンポジウム準備進捗状況について
 - (3) 個人会員名簿改訂について
 - (4) 経産省における防災機器展示会について
 - (5) トイレ・バス・キッチン空間フェア2016について
 - (6) リーフレット改訂について
 - (7) プレ便大会について
 - (8) 各部会 研究会 委員会の動き
 - (9) 事務局連絡

2016年度第32回全国トイレシンポジウム概要

テーマ「パブリックデザインとトイレ」

＝ 公共空間の多様な利用と整備におけるトイレの在り方を考える ＝

開催概要

開催日時 2016年11月12日(土) 9時50分 開会

会場 日本大学理工学部1号館131教室(東京都千代田区神田駿河台1-8-14)

参加費 無料(但し 資料代実費 2千円) 交流会費 4千円

主催 一般社団法人 日本トイレ協会

共催 一般社団法人 パブリックデザインコンソーシアム

後援(予定) 経済産業省、国土交通省、他関係団体

事務局 第32回全国トイレシンポジウム実行委員会事務局

(株)ダイナックス都市環境研究所内(東京都港区西新橋2-11-5TKK 西新橋ビル)

Tel 03-3580-8221(担当 山本、石垣)

詳細は9月発送の協会ニュース号外でお知らせいたします。

編集後記

6月11日の神奈川新聞に、『学校で大「恥ずかしい」→全部個室にします』という記事が掲載されました。内容は、「小中学生の男子生徒が学校で大便をするとからかわれるので、男子トイレも、小便器を無くし、全部、洋式大便器にしよう」と大和市教育委員会が決定を下した」というものでした。

この記事を読み、「学校で大便をしないで家まで我慢した」という私の30年前の記憶がよみがえってきました。時代が代わり「日本のトイレが素晴らしい」と世界から讃嘆されていても、この問題は解決してないんだなと痛感しました。

男性なら共感できるこの問題に、ハードではなく、音楽の力で立ち向かおうというバンドが出来ました。私のトイレ仲間でもあり、トイレ協会会員でもあるときどきキャンプの佐藤満春さんが結成した「サトミツ&ザ・トイレッツ」というバンドです。

佐藤さんの「小学生男子がトイレに行けない問題を何とかしよう」との声かけに、ゴメスザヒットマンの山田稔明さん、キンモクセイの伊藤俊吾さん、佐々木良さん、元くるりの森信行さん、гентウキの伊藤健太さんというそうそうたるミュージシャンが賛同し、日本初のトイレバンドが組まれました。

既に3曲のトイレソングが完成し、ライブなどを通じ、音楽によるトイレ問題の改善の取り組みが始まりました。「トイレに行けない問題」の解決、地道な啓蒙活動に期待しています。(運営委員。山戸伸孝)

一般社団法人 日本トイレ協会

JAPAN TOILET ASSOCIATION

〒112-0003

URL: <http://www.toilet-kyoukai.jp>

東京都文京区春日 1-5-3 1F-A

e-mail: jta-jimukyoku@toilet-kyoukai.jp

Tel 03-5844-6123

